

会 議 録

1 会議名

令和８年度第１回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的な審議】

- ・五智地区の協議テーマについて（公開）

【協議事項】

- ・地域協議会だよりの編集委員について（公開）

3 開催日時

令和８年４月１４日（火）午後６時３０分から午後８時００分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

１人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委 員： 磯田会長、田中（美）副会長、古澤副会長、稲川委員、今川委員、
笠原委員、鴨井委員、柴山委員、関澤委員、田中（実）委員、
田中（由）委員、土肥委員、保坂委員、増田委員、丸山委員、
（欠席者２名）

- ・事務局： 北部まちづくりセンター 内藤所長、勝島副所長、新保係長、丸山主任

8 発言の内容

【勝島副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第８条第２項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

４月の人事異動により事務局の体制が変わったため、職員からご挨拶をさせていただきます。

【新保係長】

- ・挨拶

【磯田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：田中（由）委員、土肥委員に依頼

議題【自主的な審議】五智地区の協議テーマについて、前回協議会の意見交換の結果の振り返りと、本年度の進め方について事務局へ説明を求める。

【新保係長】

- ・資料No.1 「自主的な審議『五智地区の協議テーマについて』」に基づき説明

【磯田会長】

五智地区の協議テーマについての振り返りが示された。前回の意見交換の中で、皆さんの発言の漏れ落ちがないかどうかの確認と、ここに表記されていないことでも意見があればご発言いただきたい。

（意見なし）

資料2について、事務局へ説明を求める。

【新保係長】

- ・資料No.2 「令和8年度 直江津区・自主的な審議の進め方（案）」に基づき説明

資料2の中央、A案、B案ともに「五智地区を、5つの構成要素（地域活性化の方向性）から見る」という部分があるが、7次総ダイジェスト版など配布した資料や、「直江津のグランドデザインを描く事業の実績報告及び直江津まちづくりの提言書」を用いて、会長からご説明いただきたい。

【磯田会長】

A案、B案とも、基本的に、市の第7次総合計画をベースに検討していくべきものということと、地域活性化の方向性は、この期の委員ではなく前期の委員の中で、直江津区の地域の方向性の形や、事業や検討を進めていく方向がオーソライズされているという前提を踏まえた上で向かっていきたいと思う。そういった意味で、もう一度そこを振り返っておくということで、今日この時間を取らせていただいた。

- ・資料「上越市第7次総合計画ダイジェスト版」

『直江津のグランドデザインを描く事業』実績報告及び直江津まちづくり提言書」に基づき説明

今回のA案もB案も、基本は同じ形で、知る、課題を整理する、それについてどういう提案がいいのか、また皆さんと共に検討する。そして地域の人とも相談して、事業化に向けて進めていくというのが取り組みの方向性ということになる。

A案、B案の違いとしては、タイムスケジュールをどう考えていくかというところと知るというところである。今までこれだけ整理をしてきている、あるいは協議会の中でも、町内会の皆さんやいろいろな団体と意見交換をしながら一度整理をつけたものについて、どこまで「知る」を深掘りするかが、A案とB案の違いだと思う。

これを踏まえた上で、今後の進め方についてご意見をいただきたい。

【笠原委員】

私は、前回欠席したので、資料を見て質問させていただく。

この『『現地』で聞く（ヒアリング、アンケート）』というのは、具体的にどこでどのような形でという考えはあるか。

【磯田会長】

事務局、どのように考えているか。

【新保係長】

1つ目として施設をご利用されている方がいると思う。例えば、五智公園にお越しになられている方、神社仏閣等を見学に来られている方など、いろいろおられると思う。どちらかというと、そこに住んでいない方の声である。

2つ目は地域の方。町内会の皆様や、子どもさんたちの世代である。前回の会議の中では、子育て世代の方や学生さんたちからの声を聞いてはどうかというようなお話をいただいている。

その部分を踏まえると、町内会だけではなく、実際に住まわられていて個人的にサークルをされている方や子ども会さんなど、いろいろなアプローチする場所が考えられると思う。どのような団体がいくつあるのかまでは調べきれていないが、今までと少し違った部分のアプローチを地域の方や来られる方に対して行ってはどうかとイメージしている。

【笠原委員】

具体的には紙ベースでやられるのか。インターネットを使った収集もあると思う。また、エルマールさん等からご協力いただければ、直江津全体の声が拾えるのではないかなと思う。

【古澤副会長】

今の笠原委員の意見はそのとおりだと思う。どのように拾っていくか、具体的なものがないと、絵に描いた餅になってしまう。町内会の方や施設を利用している方等あるが、そこを絞り込んでいくのが私たち地域協議会委員だろうと思う。そこをきちんと決めていかないと物事が進まない。ただ話だけで終わってしまうとそのまあいってしまう。全体を2班ぐらい分けて、具体的にどうするか、どういう任務につくのか、設けながら実行に移していくという意味である。

9月頃となっているが、着地点をいつ頃にするか明確にしていくと、目標ができていいと思う。磯田会長もそう思っておられるが、案として私から提案させていただければと思う。

【磯田会長】

B案の4月の項目には「総合計画の概要。項目の確認」、「市民等の声を聞く手法の検討、聞き取りの項目づくり」とある。どういう手法や項目にするのか、ターゲットをどうするのかだが、すでに4月なので、むやみやたらに聞いても意味はないし、ある程度のビジョンが見えている中で、どういうことをアンケートを取るか。たくさん意見を聞いて、集約した中の課題を解決するという手法もあるが、課題としてはだいぶ整理されている中で、どのように声を集約していくか、参加の可能性がある人たちを見定めていくというアンケートの取り方や、地域へのオファーも込めた動きが出てくる必要もあると思っているので、5月にそれらが行われればいいと思う。

協議会の全体会議は月に1回しかないなので、その前にある程度のやり方や、調査の内容を事務局に整理をしていただいて、皆さんに情報を出していきながらスムーズに決めていくように進めていきたいと個人的には思っている。

【増田委員】

一番基本的なことを確認しておかなければいけないと思う。

ここに、「ヒアリング、アンケート。いろいろな人の意見を聞く」と書いてあるが、何を聞くのかを一番押さえておかないといけないと思う。

7次総の5つの基本目標や、直江津区活性化の方向性の一覧表には、住んでいる生活全般のことが書いてある。だから皆さんは、地域協議会として五智地区の生活すべてを取り上げてやるのかと、勘違いするのではないかな。そんな大それたことを地域協議会でできるのか、五智の次は直江津という話になる。

そもそも、五智公園を何とかしたいというところから話が出ていると思うので、そちらの方向にしっかり絞っていくと、五智公園のどこが楽しいのか、改善するところはどこかと聞くことが絞れるので、そういうやり方がいいと思う。

【関澤委員】

進め方については、A案、B案のどちらでもいいと思う。

参考までに、12日に五智公園を育てる会の総会があった。その後、役員の皆さんを集めて、地域協議会でこういうことをやろうとしているということで、意見をお聞きして来た。皆さん、地域協議会の関わりについては否定する方はいらっしゃらなかった。

何を要望したいかというところ、この前、私も言ったが、みんな高齢化している。樹木も高齢化している。里山や林の手入れ、蝶の食草、トイレの関係、水の関係、木もだいたい老化しており、倒れてくるかもしれないということで、その対策。イノシシの対策、子どもさんたちが間違っただけで入ったときに困るということで、電柵は使いたくないという話だった。要するに、市民の安全を守りながら、松やコナラの対策をやりたというようなことを言っていた。

地域協議会で来てほしいと言えれば来るかと会長に聞いたところ、「行きます。」という力強い言葉が出た。

ゴーカートは市役所の担当なので、五智公園を育てる会は関係ない。市の担当も、都市整備課と農林水産課に分かれていて、難しいところもある。

【柴山委員】

五智のマップを見たところ、例えば五智国分寺、居多神社には各々宮司さんや住職もいるので、自分たちで整備、整頓はされていると思う。五智公園に関しては、ボランティア等の人たちの興味がないと、参加する方が少ないと思う。五智地区全体となると、莫大な広いエリアになるので、ピンポイントで五智公園を育てる会をバックアップするほうが私にはいいと思う。確かに神社仏閣がたくさんあって、全部観光のルートにすればいいのだが、大きすぎて無理があると思う。

昨日、五智地区健康推進リーダーの方が来られたので提案をした。毎年春と秋に健康ウォークをやっている。ここ何年かを見ていると、春日山へ行って帰ってくるというだけのコースだった。今後、五智地区の観光資源を回るようなルートも検討してもらえないかというお話をした。まず地元の人たちが、この史跡を知らないと話にならないと思い、そのような提案をさせていただいたところ、今年の春のコースはもう決まっている

ということで、秋の会議のときに提案するという返答があった。

【磯田会長】

先日の増田委員からの、五智公園だけではなく五智全体の話をしたほうがいいのではないかという流れからこういう話になってきているわけだが、今はそこまで間口を広げてしまうと、薄くて効果も乏しいと思うので、少し絞ったほうがいいのではないかという再提案がされたと思う。

お二方の話をお聞きすると、資料1の4つの四角の中の、「五智公園を育てる会」と「五智公園との関わり方、特徴」に、より注力と検討を深めてはどうかというような提案だと理解した。これについてのご意見やお考えはあるか。

【田中（美） 副会長】

私も、五智公園に絞ってというのは、とてもいいのではないかと思う。いつも話し合いになると漠然と広がってしまっていて、最終的にまとまらないことが多いので、まず1つずつやって、その中にもしかしたら違う絡みも出てくるかもしれないので、その絡みが出てきたときに、また次のところという形で区切りをつけてから次に移るほうがいいのではないかと私は思う。

【田中（由） 委員】

五智に住んでかなり経つが、今回五智がテーマになったことで、稲川委員と二人でとても喜んでいる。

とてもいいところだが、以前は子どもを連れて歩いたときに、駄菓子屋さんや歴史の里会館でもアイスが買えたが、今はアイスを買えるところがない。とても残念である。せっかく国分寺さんや、居多神社さん、白山神社さん、弁財天さん、お寺もいくつかあるが、地元の人もあまりよく知らないというのが実状だと思う。私も一回だけ歩いて、寺院巡りのようなツアーに参加させてもらったがとても良かった。これを機会にそういったものが盛んになれば、地元の方だけでなく、今の時代、各地からそういったものを求める方が訪れると思う。せっかくなので、上越市全体で盛り上げてもらえたらと思う。

【稲川委員】

前回もお話しさせてもらったが、私も五智公園を育てる会の会員でもある。

以前、歴史の本を片手に歩いている方がおられたので声をかけたところ、「今、明静院というところへ歩いて行ってきた。これから光源寺へ行きたいが、行き方がわからない。」ということだった。その方は東京にお住まいで、携帯で調べるのではなく、自力でお寺

等を巡ることを趣味にされているそうで、「このあたりは歴史がすごいですね。」という話をいただいた。SNSに頼らずに、自力で歩いて探している方を見たときに、こういう方もいらっしゃることにすばらしいと思った。

また別の時には、外国の方がお二人で携帯を見ながら何かを探しておられるようだった。声をかけたところ、上越にお勤めで、交通公園のゴーカートを求めて直江津から歩いて来られたということだった。地元の人でも交通公園に行かないのに、SNSで交通公園のゴーカートを探し求めて来られる方がいらっしゃるということがとても嬉しくてありがたかった。

地元の人が自分たちの住んでいるところを誇りに思い、宣伝するような試みがあれば、訪問された方がSNSで発信してくれるような機会をいただけるのではないかな。まずは、利用者、訪問者だけでなく、地元の方を巻き込んで、自分たちの住んでいる場所をもっとアピールできる形にしていけばいいのではないかなと思った。

【柴山委員】

今このマップを見ていて、例えば居多神社も国分寺も国府別院も、年に1回か2回必ずイベントをやっていて発信している。例えば居多神社は8月20日に例大祭、年に3、4回春祭り等があり発信している。国府別院は秋の月を見る会をやっている。光源寺はわからないが、こうやって見ると、各々の団体の人たちが頑張って情報を発信している。

五智公園に関しては、少しパンチが弱いような感じがする。五智地区全体を見ても、神社仏閣、史跡等は、町内の人たちが草取りをしたりして、頑張って維持していると思うので、五智公園に集中したほうがいいと思う。

【関澤委員】

私は今の意見と正反対で、五智地区は狭いエリアなので、全体を考えて進めていったほうがいいと思う。もちろん五智公園はメインではあるが、五智の歴史の里協議会もある。そこにも問題点がいろいろある。

前任の石崎係長と、私と事務局で話したこともあったが、問題も山積みしている。すぐそば、全部回ってもたかが知れている距離で、五智全体を考えてもらうことも必要ではないかと考えている。

この進め方もどちらかに決めて、早めに進んでいったほうがいいと思う。

【土肥委員】

4月25日、26日に、五智の国分寺で、「五智おさんぽ縁日」が開催される。SNS

でしか出店者さんを募っていないが、年々出店者さんが増えている。私も好きだが、忙しい時期なので出店はしていないが、子育て世代が中心でいろいろな世代の方が来る。ポイントとしては、そこに訪れるということが恐らくキーワードで、次に「こんな神社あるんだ。」と知る。その後、ゴーカートに乗る。五智公園もこれからいい季節になるので、マルシェみたいなことやって、別々ではなく団体さん等を全部いろいろ巻き込んで統制をとって、連動してそこで歴史ツアーなどを派生するようにやったり、五智おさんぽ縁日はSNSだけの出店だが、五智公園を育てる会も、若い会員さんがいればSNS等で外部に見頃等を発信してはどうか。「いい」と言っても外部に知られなければ、内部だけで終わってしまう。SNSで発信をしてもいいのではないかと私は思っている。

まず、訪れてもらうことが第一段階ではないか。それで「ここはいい。」と知ってもらう。私も視察に行ったときに、神社の歴史等を聞いて、見方が変わった部分があるので、まず訪れてもらわないと意味がないのではないかなと思う。

【磯田会長】

おさんぽ縁日は、2年くらい温めてきており、だんだん大きくなってきているイベントだと思う。そこを目的として来る方に、次のステップを紹介する、つなげていくというのは非常にいい視点だと思う。

7次総で、地域の方向性として分けてはいるものの、実はみんなつながっていて、例えば観光でやるのが、地域の活動や、ほかのところの課題解決につながることもある。その連鎖をうまく作るのが、地域協議会の1つの役割なのではないかなと思う。

資料1に4つの項目があるが、「五智公園の関わり方、特徴」と、「歴史の里会館、神社仏閣」、あるいはそこを活用していくという2つの大きな課題がある。五智公園を育てる会の課題も「五智公園との関わり方、特徴」に包含されると思うし、「地域の特徴、活かし方」の中の市民向けツアーは、歴史観光のところに包括されるだろうし、公園や人が利用する場所にお店が欲しいという要望は、交通公園で新しい子育て世代の人たちのコミュニティをどう作っていくか、そこに店を出してもらえる人がどう出てこれるのか、キッチンカーの話も、市も海浜公園で行った去年のイベントのときに、そうしたことをもくろんでいたもので、行政側にもその方向性で働きかけることは十分可能だと思う。この2つの大きなテーマを掲げて、やれる人、アイデアを持つ人、実際に関わりたい課題の人たちが、より深く掘っていく形にしていってもいいのではないかなと思う。そのあたりについて皆さんから意見をいただきたい。

【柴山委員】

私は五智地区協議会の会長として五智公園を育てる会の活動を見ているが、入ってくる情報は全て苦情だけで、草刈りに協力してほしいといった話だけである。先ほどの土肥委員の意見と同じで、もう少しアイデアないのか。知恵を絞って、何かできること、そこに来てもらう方法や作戦を考えてはどうか。「草刈りをするので長靴と軍手を持ってきてください。」と言われても誰も行かないと思う。

例えば自分の子どもの誕生記念樹の草刈りに年に1回行くなど、そういう知恵がないのか。桜の木を10本用意して記念樹として植えるといったことも、あってもいいと思う。そうする毎年、「お、花咲いたな。」と1回は来るかもしれないし、下草刈り等に何回も来る。知恵というかアイデアがないのかなと私は思う。

【磯田会長】

今のお話は、要はどれだけ企画を立てて、それを実行していく組織やマンパワーがあるか、作っていくかということを出掛けていかないと、地域の人に「こういうのをやってください」と提案するわけにはいかなくて、共にやるというスタンスでいかないと難しいと思う。企画面や、「こういうことで、こういうアイデアと一緒にやりませんか。」と働きかけていかないと、地域主導、地元主導では難しい局面もあると思う。その辺は、皆さんはどうお考えになるか。

協議会としてどこまでコミットしていくかという問題もあるが、福島城の話も含めて、団体とある程度意思疎通を図りながら一緒に歩いていく立ち位置で、それが五智の活性化につながる道筋であれば、我々もコミットしていいと思う。ただ、どれだけ我々ができるかは別の話になるが、考え方としては、基本的に五智公園と歴史観光の2本立てで検討していくということを提案したいと思うがいかがか。

【増田委員】

今、会長からまとめていただいたが、まず五智公園の魅力を発信する。発信するために魅力ある公園にすることが1つ。

もう1つは、五智は歴史の里であるから、この歴史を大切に、発信しなければならないと思う。国分寺も居多神社もそのほかの神社も、みんな由緒ある神社なので、その由緒あるということをきちんと発信しないといけない。個々のお寺さんや神社さんは、それぞれ自分のところの環境整備をやられておられるので、私たちができることは、それを市民の皆さんに発信する、あるいは全国から来られる方に知ってもらうことに力を

入れていけばいいのではないか。その方向で協議会も進めていけばいいと思う。

【磯田会長】

五智公園の魅力については、五智公園を育てる会という団体がある。それから歴史の発信については、歴史の里会館があって協議会がある。お互いの団体は、疲弊していたり、課題もあるが、少なくとも担う団体がある中で、協議会がこの2つの課題に向けて考えていく、クロスオーバーする部分もあるが、どこと協議していかなければいけないか、どういうターゲットを想定して声を聞いていくかという点も含めて、少しは絞れてきたのではないかと思う。

A案とB案との違いは、どのぐらいのタイムスケジュールで考えるか、あるいは令和9年度に向けてやれることを構築していくかどうかだと思うが、その辺について皆さんからご意見をいただきたい。

【今川委員】

12日に五智公園を育てる会の総会に行ってきたが、20名くらいはいらっしまったと思う。私は、入会してからほとんど出られなかったが、どうにか五智公園まで歩いて行った。

五智公園の中の道はとても複雑で、下手をすると迷うかもしれないと思うこともあった。

私が参加することに対して、自信を持っている。普段の活動自体は、ほぼ日曜日だけで何人もいらっしまったと思う。

【磯田会長】

今質問を投げかけたのは、A案、B案、どちらの方向で進んでいくかという点である。

【今川委員】

私はB案の方がいいと思う。

【鴨井委員】

ゴールを決めて進めるのがいいと思う。今の段階で、9年度の独自予算事業には間に合わないと思う。100%無理だと思うので、ここは変えたほうがいいと思う。

【磯田会長】

9年度の事業がどのようなになるかは、まだ発表されていないのでわからないが、もしかすると9月ではなくて、今までの地域独自予算の時代のようなタイミングになるかもしれないし、その辺はまだ不透明なところもある。あまり長くだらだらせずに、ゴール

を決めて向かっていくという趣旨で提案をしているとご理解いただきたい。

【田中（実）委員】

一番肝心なのは、五智公園を育てる会の皆さんの考え方だと思う。お話を聞くと、写真にあるように、山の手入れ等を実行されたいというお話だと思う。皆さんの話を聞きしたところ、歴史ある神社、仏閣、それ以上に、とても重大なことを皆さん忘れていらっしゃる。

以前にも少しお話したが、直江津地区だけでは話は進まない。春日山を踏まえた形で進めないと、皆さんが考えているような話は進まないと思う。皆さんから、どうして話が出てこないのか。

私から1つだけ申し上げたい。直江津には北前船が寄港していた。当時使われたかは分からないが、県の重要文化財になっていると思う「土船」がある。そういったものをうまく活用できないかと思っている。もう少し直江津地区の観光を、もっと深く掘り起こしていったほうがいいと思う。1年、半年で完成という話ではない。

【保坂委員】

進め方としては、五智公園を育てる会を中心に神社仏閣ということで今話を聞いた。A案、B案にするとすると、B案は1年ギリギリくらいまでの予定だが、どこでどうなるかわからないので、終わりを早く決めておいて進めたほうがいいと思う。B案の予定で話を進めていったほうが、何かあっても余裕があるのでいいのではないかなと思う。

【丸山委員】

いい進め方だと思う。先ほど鴨井委員からも話があったが、今年度のゴールをどこにするのかが気になっている。それでいくと、B案の9月に今後の独自予算の取り組みを検討する。独自予算を使うかどうかは置いておいても、今後の取組の方向性をここで一度出せるのではないかなと思うので、B案で進めていくべきではないかなと思う。

【笠原委員】

進め方については、やり始めるとアンケートやまとめる時間などいろいろあるので、前倒しで考えていくのはいいと思う。独自予算については、今後どうなるか分からないので、一旦置いておくのがいいのではないかなと思う。できる範囲のことを進めながら、先ほど土肥委員からもあったように、なるべく情報発信をしながら、併せてこちらを進めていくのがいいと思う。

今、観光コンベンションセンターで直江津のサイトを作っていて、寺社仏閣や、直江

津の推しを募集して紹介したり、イベント情報も載せる予定で、今依頼を受けて制作している。まだでき上がってないのでお教えはできないが、こういったものも活用していただきながら、次のステップに向けてのヒアリングや、検討を進めていけばいいのではないかと思う。

【磯田会長】

実は、そういった観光サイトは直江津にもたくさんあって、以前も作られて活用されていない冬眠状態のものがたくさんあるが、それらを一元的に管理していくような、システムや、責任ある人が必ず更新していくというような形を作らないといけない。コンベンションセンターもいいが、直江津DMOやRMOという組織が立ち上がって、そうしたことをきちんと担っていくようにしていかなないと、というのが個人的な感想である。

【古澤副会長】

B案の関係として、9月に「令和9年度実施の取り組みを検討する」とあるが、検討する中でいろいろな要望が出てくると思う。それには予算が絡んでくるものがある。今までの地域協議会は、いろいろな予算を決めて、予算を申請して、皆さん方から喜んで活動してもらうということを基本として育ってきた。どうなるかは分からないが、いろいろな要望が来た場合、お金のかかるものについては検討していけばいいのではないかという案である。皆さんにご承知おき願えればと思う。

【増田委員】

今、古澤副会長がおっしゃったとおり、何か行うにはお金がかかる。相当なお金を市民の皆さんに出していただくのは難しいので、独自予算は、制度の名前は変わるかもしれないが、補助制度がなくなることはないので、それを目指してある程度進める必要があると思う。発信するためには、土肥委員がおっしゃったSNSにしても、紙ベースにしても、いずれにしてもお金がかかるので、独自予算的なものを使って発信することを目指して進めていけばいいのではないか。独自予算で入りきれないものがあれば、市の予算編成が9月から始まるので、そちらに持っていく方法もある。皆さんがおっしゃるとおり、9月を目処に進めていく。会長が先ほど月に1回と言ったが、皆さんの気持ちが合えば、月に2回でも構わない。気持ちが合えばの話だが、そういう意気込みでやっていかないと、なかなか難しいということである。そのあたりをご理解いただいて、みんなで進めていけばいいと思う。

【磯田会長】

方向性としては、五智公園との関わり、あるいは五智公園を育てる会の課題が1つ。それから歴史の里会館、神社仏閣、五智の歴史観光という2つの課題、項目で今後議論を進めていければというようにまとまったと思う。

タイムスケジュール的にはB案で、まずは独自予算の申請団体、協力団体を考えていく、あるいはこれに向かって進めていく、事業化していくというような方向で検討をしていきたいと思う。

次回は5月だが、その前に、今日の話を受けて、事務局と今後の進め方やより具体的な部分を詰めて、5月の会議前に皆さんに提案をお送りするので、それぞれ考えていただいて会議に臨んでいきたい。

次回はワークショップ形式で、この2つの課題について、2班ぐらいに分かれて議論をするということで、大枠その方向で考えたいと思っているが、いかがか。

(異議なし)

「五智地区の協議テーマについて」は、以上で終了とする。

議題【協議事項】地域協議会だよりの編集委員について、事務局へ説明を求める。

【新保係長】

地域協議会だよりの編集委員は、2名で任期1年である。

年度が変わり、編集委員の任期が満了となったので、令和8年度の編集委員を選出いただきたい。令和6年度は小玉委員と沼波委員、7年度は増田委員と田中（由）委員からご協力いただいた。

【磯田会長】

編集委員を決める前に、増田委員と田中（由）委員から簡単に報告をお願いする。

【田中（由）委員】

私は何もしておらず、大変申し訳ない。次にやる機会があれば頑張る。

【増田委員】

私は、語句の訂正だけに焦点を絞ってやった。一番良かったのは、最後の地域協議会だよりの83号で、福島城のことをしっかり事務局から書いてもらった点で、これはすごく良かったと思う。今後はこういう方向でやっていけば、もっとよく地域協議会を知ってもらえるのではないかな。市といろいろな課題について話をするときに、こういう質問が出て、こういう回答があったということを少し入れると、読む人の興味が湧くのではないかな。これまでの1年間は、あまりそういうことはなかったので書けなかったが、そ

のような内容を入れていくと、もっと良くなるのではないかと思います。

【磯田会長】

協議会だよりの改革も含めて、こういうものを作りたい、やりたいという方はいらっしゃるか。

【古澤副会長】

土肥委員いかがか。

【土肥委員】

では、私と笠原委員でやりたいと思う。

【磯田会長】

では、笠原委員と土肥委員に編集委員をお願いする。

その他に移る。

事務局へ次回の日程等をお願いする。

【新保係長】

- ・チラシ「大日如来と謙信公」（令和9年度地域独自の予算事業）の紹介
- ・次回協議会の日程について検討

【磯田会長】

- ・次回協議会：5月12日（火）午後5時から
ほかに意見を求めるがなし。
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。